



Yokoso Obara Linkai

山里暮らしのあれこれ

Take Free [0円]

おはらのじかん

— 第37号 —

2026 Summer

巻頭
特集

ようこそおばらへ
正藍染め作家
国分さん

[みんなの居場所「ヨリアイ〜Yoriai」はじまる]

[マンガイカくんキンちゃんの小原日記]

[小原いろいろ情報]



小原人集まれ!

「ようこそおばら委員会」

小原人
以外でもOK

正藍染め作家

国分さん



三者三様に仕上がった藍染



丁寧にレクチャーしてくれる国分さん

6月某日、梅雨が二休みした晴れ間の見える日に藍染体験をさせて頂きました。「雨だと布が乾きにくく時間がかかる為、予備日を設定された方が良いでしょう」と言っただけなのですが、都合がつかずこの二日に賭けた私たちに、お天道様は味方をしてくれたようです。

体験をさせて頂き下されるのは、2024年に道慈自治区へ家族と移住された染め師の国分さん。藍染を多くの方に知って欲しい！という想いを胸に活動されており、ご自宅兼工房での藍染め体験の他に、持ち込みの品に正藍染めを施す受注サービスを提供されています。また、今号でも取材させて頂いた「Yotia」等のイベントへ、ご自身が染められた商品を出店されています。

まず、一番最初に行ったのは「布選び」。

持ち込みもできますか？と聞かれる事もあるそうですが、生地や形が様々なので、初めてだとしてもムラになったり



キンキンに冷えた山水にギブアップ～

上手に染める事が難しい為、体験では比較的扱いやすい「綿の手ぬぐい」か、「麻のストール」のどちらから選びます。その中でも生成了りだったり、同じ綿でも特徴の違う生地の物もあり、自分の理想の仕上がりを思い浮かべながら選ぶ時間はとにかくワクワク！薄い色味で仕上げるのか、しっかりと藍の色味を入れたのか、使い方や自分の持つているどの服に合わせるのか……と想像を働かせながらも、結局は直感でこれ！と思った麻の白いストールを選びました。3名で伺ったのですが、それぞれ別の色味と生地を選び、違ったものが仕上がるという事で期待が膨らみました。

続いては選んだ布を洗い、染める練習。

国分さんがこのお家を選んだ1番のポイントである湧き水の出る場所まで移動し、たつぷり貯められた水の中で布をばちやばちやと洗う。そのあまりの冷たさにギブアップし、温度が上がるまで交代してもらった程、キンと

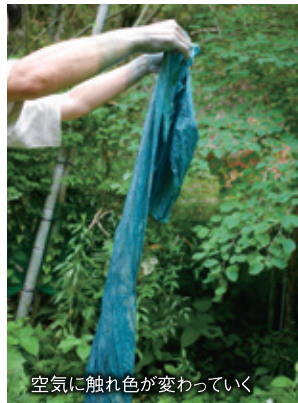


冷えたお水に、「藍染しつかり真面目にやらないさいよ！」と喝を入れられたように感じました。

洗いながら、布を藍の甕に入れた時の扱い方を教わります。本番は黒っぽい染め液が入っていて手元が見えないため、澄んだ水の中でしっかりと、手の動かし方と布の動きを確認しながら練習。伝統的な技法に、国分さんがご自身の経験の中で編み出した技法を合わせての独自のものなので、その技法と工程の詳細は体験してのお楽しみ。澄んだ水の中で泳ぐ布と向き合い、心静かに丁寧に心を込めながら行うその工程は、練習とは言え自分の心も洗われていくひと時でした。

そしていよいよ染めの作業。

少し磯の様な独特な香りのする、灰汁や、すくもなどを配合した黒っぽい染め液の入った甕に布をゆつくりと入れていく。私が選んだ麻は、液の中でふわふわと自然と広がるので、



空気に触れ色が変わっていく

他のお2人の布と3枚3様、それぞれの濃度に青く染まった布がひらひらと風になびく様子は、まだまだここから変化する期待感と、二仕事終えた達成感とでなんとも心地の良い雰囲気。さて、藍染液の甕にも

年があり、若い甕ほど元気に濃く染まり、年老いた古い甕は優しくうつすら染まるそう。濃く染めたければ、何でも若い甕で二気に染めれば良い。という事ではなく、「染め重ねる」事が重要。濃くしたくても、まずは老いた甕から徐々に濃くしていく。生地の形によつて一枚一枚、それぞれに合わせた染め方をしていく。

そうする事で堅牢度があり、色落ちしにくくなったり、藍染による抗菌や防臭等様々な効能がしっかりと現れるのだそうです。

ここからまた甕の中の作業



甕の中で作業している様子

是非、皆さんもこの極上の時間と藍の素晴らしさを、体感してみませんか？体験のお申し込みやお問い合わせは8rika@live.jp、又はインスタグラムまで。

Y.S

国分さんにインタビュー

最近とても暑いですね。小原も暑くて大変ですが、そんな小原に来て良かったことはありますか？

はい。いつも裏山からきれいな湧き水が湧いているのがありがたいです。小原は『吉田の名水』以外にも、いろんなところに綺麗なお水が豊かにあるんです。

小原に移住した理由を教えてください。だいてもよろしいでしょうか？

最初は夫と他市に住んでいたのですが、藍染に水道水が使えないので、きれいな水が必要なんです。そこで、二週間に二度、小原にある『吉田の名水』の水をいただくことにしました。そうして小原に通ううちに、とても良いところだなと思って…。

そうなんですね！

空き家バンクで譲り受けた古民家に住んでいるのですが、裏山から湧き水が出ていたので、それをそのまま藍染に使わせていただいています。それとお隣さんがとてもいい人だったので、それが移住の決め手でした。

なぜ、水道水は藍染に使えないのでしょうか？

正藍染というのは藍の葉を微生物の能力で発酵させて、それをまた灰汁で二次発酵させたものなので、微生物が甕の中にうようよいあるんですね。

へえ！

つまり、その微生物の力を借りて染めているんです。ですが、水道水には塩素が入っていて、それがいい微生物も殺してしまふんです。

全力でうなづく

なので、水道水は使えません。

先ほど『藍染をするのに湧き水を使っている』と伺いましたが、その水を使って、藍染以外にしていることはありますか？

はい。湧き水を飲むのはどうかと言われていますが、うちの子どもはゴクゴク飲んでいますが、私たちはその湧水でお茶を淹れたり、お米を研いだりしていますよ。

以前、藍染について調べたときに、『本藍染』という言葉を見かけたのですが、本藍染に使われている植物は、正藍染と一緒でしょうか？

本藍染というのは、化学薬品を使わず『すくも』を使っているという意味があります。残念ながら、現在はタイバを重視する世の中なので、化学薬品を使用している製品が結構あるみたいですが…。

いつ、やりがいを感じますか？

そうですね、一瞬一瞬やりがいを感じています。綺麗に染まっているとやりがいを感じるし、静かに染めている時間にもやりがいを感じます。もちろん、お客様に喜んでいただいたときにも感じますよ。

お客様に言われた言葉の中で、一番うれしかった言葉は何ですか？

着るのを諦めなければならぬくらい着古したお客様の服を、私が藍染させていただいたときに『服がまるで生き返ったよう。別物みたい。』と喜んでくださったのがうれしかったです。

誰かに喜んでもらえるのが嬉しいですよ。次、もっとこうしようと思うのはどんなときですか？

失敗した時ですね。色あせてしまったり、むらが出てしまったりとか。失敗したときは、これから気をつけ



Blue(サムライブルー)が浮かん。そこから藍染に興味をもつて、栃木県の佐野市にある大川公二先生に弟子入りをして教えていただき、それから正藍染を始めるようになりました。

オーストラリアの草木染と、正藍染を比べたときに、正藍染の日本らしさっていうのはどこに表れますか？

どちらも基本的に、熱を加えて煮出して色を抽出して染めるんです。

正藍染は葉っぱを煮たりしないんです。ただゆっくり灰汁で発酵させて、それで染めるものなので、手間も全然違います。藍染っていうのは、世界各国にあるもので、昔からアフリカとかでもやってるし、ヨーロッパでもやってるし、アジアの色んな所でもやってるのですが、この正藍染が日本らしいなと思ったのは、何回も染め重ねるところです。やっぱりあの日本の職人技っていうのはあの藍染だけではなくすごく手間をかけて極める傾向があつて正藍染のそういうところがあつて日本人らしくて素敵です。

とても素敵ですね！今回はありがとうございました。

ありがとうございます。

ところで、今着ている服はご自身で作られたのでしょうか？

そうです。八年前、藍染を始めた時に染めたものなんです。

素敵ですね！今後の展望について教えてください。



ようと思います。

藍染で染めたものを触らせていただいたとき、独特な匂いや良い手触りがあり驚きました。なかなか触れる機会がないので、貴重な体験でした。ありがとうございます。では、早速質問に移ります。日本の数ある伝統芸能の中から、藍染を選ばれた理由は何ですか？

私、もともとは絵描きだったんです。二〇二年の東日本大震災がきっかけで、科学的なものを使いたくなくなり、絵の具の環境問題に関心を寄せるようになりました。初めは絵の具ではなく、草木染めをベースとした絵画をやっていたんです。特に、オーストラリアのユーカリの葉で描くのが楽しくてやっていました。ですが、それだと日本人である自分のルーツを表現することができないので、どうしようか悩んでいたときに、Japan



2025年第34号より
小原の魅力を発信してくれている
小原中学生2年生の皆さん



みんなの居場所「ヨリアイYorai」はじまる。

「ヨリアイ」小原の人たちには耳なじみな言葉。地域の人たちが集い行事をして話をするみんなの居場所。昨年の11月から「立春大吉」の場所をベースに、こどももおとなもよりあうばしょ「ヨリアイYorai」というイベントがはじまりました。



その主要メンバーが再び「ヨリアイ」メンバーとして集まり、新たなメンバーも加わり、力を入れ過ぎずやり続けられるように、規模は小さく内容は濃く。そして「419市」の教訓で、参加しているスタッフも参加して自分たちも楽しめるように。毎回イベントの後にメンバーが集まってミーティングをして話しあう。次回出店できる人は手をあげ、足りない部門、例えばお菓子を出す人がいなければ、メンバーの中で知り合いに声をかけて補う。これは、できなかった時それぞれが成長し、新たなつながりを得たからこそできること。そしてそれぞれのアイデアを試しながらやり方を探していく。自分たちのやってみたいを試してみることができる場所でもある。



新しくはじまった「ヨリアイ」は、昨年11月からはじまって7月で5回目。冬の寒い時期と夏の暑い時期をお休みして、月一回をベースに開催している。



此処に訪れてくれる人たちに居場所をつくれるよう、なるべくゆつくりと滞在してもらうためにメンバーで話し合ったり工夫したりしている。今ではそれぞれがお店を持ち、お客さんを持っているが、このイベントにそれぞれのお客さんが来て、新しくお店を知ってくれる。そして、小原の内と外の関わりができて小原を知ってもらうキッカケにでもなれば。

7月の「ヨリアイYorai」は暑さを避けて、16時〜20時の「夜イチ」でした。もちろん初の試みでしたが、こどもたちは楽しくはしゃぎ、おとなは音楽とおしゃべり、美味しい食べ物。それぞれが心地よい場所を見つけて、ゆったりとした時間が過ぎていきました。

今後「ヨリアイYorai」では、メンバーの自由な発想で、キャンプやシネマなど様々な形でこどもも大人も楽しめる企画を計画中とか。楽しい小原ここにあり!!

M.M



◆小原いろいろ情報

【10月3日(土)】

軽トラあんどんパレード
15周年となる今回、記念会として開催します
(和紙のふるさと駐車場着)

【9月19日(土)】

没後80年第十五回
おばら杉田久女俳句大会
(小原交流館)

小原で過ごした俳人杉田久女の功績をたたえ顕彰する俳句大会

【10月25日(日)】

小原文化まつり

小原歌舞伎公演
(小原交流館)

小原歌舞伎の公演をはじめ、小原地区の芸能や交流館講座の発表会

【11月】小原四季桜まつり
(小原地区)

秋に咲く桜をご覧いただけます。11月21日〜12月6日

【11月21日(土)】

おばらマルシェ with
和紙良いフェスタ
(和紙のふるさと)

作家さんとのワークショップや、地元のお店も多数出店するクラフトマーケット

おばら地区の物件を探すなら!

豊田市 空き家バンク

検索

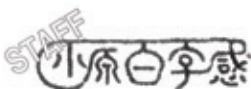
www.city.toyota.aichi.jp/akiya/



ようこそおばら
委員会の公式
SNSに登録して
ください。

facebook

Instagram



編集後記

日々、つい慌ただしく時短、楽ちゃん、効率!を追いかけてしまいがちですが、藍染体験で頭と体と感覚を存分に使い、時間と手間をかける事自体が、いかに癒しになるかを実感しました。そしてやっぱり、職人さんは偉大なあ。

Y.S. (今号編集長)

小原には生活をしながら暮らしを楽しむ人たちが多くいる気がする。そのペースはゆったりと、結果だけをすぐに求めるのではなく、そのプロセスや空気を味わいながら楽しんでいる。だから心地よいのかもしれない。

M.M

おばらの良いところを改めて知る取材となりました。山水がとてつめたくて、活用されていました。自然に根ざした暮らしを見させていただきました。正藍染自体とても面白くて瞑想をしているような感覚。心も軽くなりました。

T.S

お試し取材体験募集~!

当委員会では取材に興味のある方、試しに取材をしたい方の連絡をお待ちしております。現在体験者1名参加中。あなたも取材体験してみませんか?



ようこそ

おばら委員会

発行:2026年8月【ようこそおばら委員会事務局 豊田市役所 小原支所】

〒470-0592 愛知県豊田市小原町上平441-1 Tel 0565-65-2001 Fax 0565-65-3695

E-mail: obara-shisho@city.toyota.aichi.jp

今後、本誌の郵便(無料)を希望される方はご連絡ください。